

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立成名小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

- 自然を愛し、自ら考え行動する 心あたらない成長つ子の育成
- 自分で考えねばり強くがんばる子
- 素直で思いやりのある子
- 体をきたえる元気な子

今年度の指導の重点

- 1 基礎学力の充実を図り、主体的に取り組む学習態度を育てる。
- 2 一人一人のよさを生かしながら、自主的・創造的な活動の推進を図る。
- 3 人権尊重の精神を養い、互いに励まし合って向上しようとする態度を育てる。
- 4 自然体験を重視し、たくましい心身の育成と体力の向上に努める。

【学力状況調査の結果】

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

全国(小・中学校)

- 国語A、B、算数A、Bについて、県や全国の平均と比べると正答率が高い。
- 国語Aの「話すこと・聞くこと」の領域問題の正答率は、本校93.8%(全国79.2%)。国語Bの文章や資料から読み取ったことを基に、自分の考えを書く問いについての正答率が低い。(本校50%)
- 算数Aの「数と計算」領域については本校89.4%(全国80.5%)の正答率。そのうち、正答率が100%の問題が3問ある。
- 算数Bは、短答式の問題の正答率は、89.6%(全国66.4%)と高いが、記述式の問題の正答率は、30%(全国26.%)と低く、課題がある。

県(中学校)

- 国語、社会、算数、理科の正答率が昨年度より高くなり、県平均もかなり上回っている。
- 国語の「保健便りの作成」の「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率が37.5%(県60.6%)がかなり低い。一文を2文に書き換える問題で、常体・敬体の違いに気づかず解答している児童が多かった。
- 社会は、基礎・活用問題とも県の平均正答率を上回っている。「国土と地域の様子」の正答率75%(県61.3%)、「情報」の正答率96.9%(県86.4%)。「歴史」は、正答率56.3%(県52.3%)と低い。
- 算数は、全ての領域で県の平均正答率を上回っている。その中でも、数量関係に関する問題の正答率は59.8%(県51.3%)と、他に比べて低く、課題となる。
- 理科は、基礎の正答率は、81.7%(県65%)と高いものの、活用は61.7%(県52.6%)と低い結果になった。特に観察実験の技能は、正答率が高いが、科学的な思考・表現の正答率は68.8%と低く、課題となる。

【学習状況調査の結果】

- 毎日朝食を食べている児童の割合が県より低い。
- 毎日、同じ時刻に寝る・起きる習慣ができていない児童の割合が低い。また、平日の就寝時刻も遅い。
- 普段の日のゲームをする時間が県の平均より長い。
- 「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」児童の割合が昨年度より低くなった。
- きまりを守って生活している児童の割合が高い。
- 普段の日に読書をする児童、図書館や図書室を利用する児童の割合が県平均より高い。
- 土日に、全く勉強をしない児童の割合が高い。
- 家で授業の予習・復習をしている児童の割合が県平均よりかなり高い。
- 物事をやり遂げてうれしかったと感じている児童の割合がかなり高い。
- 「自分にはよいところがある」と思っている児童が昨年度より多くなった。
- 人の役にたつ人間になりたいと思う児童の割合が前年度より高い。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持っている児童の割合が昨年度より高い。
- 授業のはじめにめあてが示されている、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思っいる児童の割合が全国に比べてかなり高い。
- 話し合いの活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思っている児童の割合が全国に比べてかなり高い。

成果と課題

- 漢字・四則計算練習を繰り返し、定着を図ったことが結果に表れている。
- 「読書がすき」と答えた児童、普段の日に読書をする児童が増えた。
- 記述する問題の無糖率は減っているが、正答率は上がっていない。自分の考えを持ち、文章に表す活動を多く経験させることが必要である。
- 理科は、何度も既習内容の振り返りを徹底したことが、結果に表れてきている。しかし、思考や表現は短期間で身につくものではないので、理科の授業で推測や自分流の理論付けなどのトレーニングをする必要がある。
- 「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合が昨年度より高くなっている。県の調査結果では、テスト結果が上位の児童「ほど『そう思わない』」と思っいる児童が多い。さらに、自己肯定感を持たせる取り組みが必要である。
- 家庭で宿題、予習・復習をする児童が多くなった。平日の家庭学習の習慣は身につけている。土日は、スポーツなどの活動をして いる児童が多く、学習時間が十分ない。
- 早寝・早起きと朝ご飯を食べることに習慣化が今一歩である。家庭との連携が必要である。

課題に対応した改善方法

- 漢字の読み書きや計算の小テストを定期的に実施し、児童のつまずきをきめ細かく把握し、個に応じた支援を行う。
- 授業の中で自分の考えを書いたり、伝えたりする時間を確保する。読み取ったことや考えを字数やキーワードの条件を入れ文章を書くトレーニングをさせる。
- 問題データベースのプリントを活用し、朝の活動や家庭学習で取り組ませていく。
- 学力学習状況調査の問題を単元ごとに授業で活用する。
- 予習・復習を全校で取り組む。望ましい自主学習の内容を指導したり、好事例を紹介したりするなどして、取り組みを活性化させる。
- 「ここに成名っ子カード」「家庭学習カレンダー」の取り組みをし、保護者の協力を得て、家庭での生活習慣の確立を図る。
- 自分のよさを認めていくために、学習やくらしの中で評価し合う活動をさらに充実させる。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 授業の中で記述問題をしたり、考えを書いたり、伝えたりする時間を多く取り入れる。(授業時間、朝の活動)
- 漢字・計算の小テストを実施し、児童自身にもふり返りをさせる。(単元末、学期末、学年末)
- 国語・算数・理科・社会定着が低い内容について検証し、補充問題をさせていく。(4月)
- 自分の思いや考えを伝えることに自信を持たせるため、作文の発表、日記を学級通信などで紹介する。(単元末、学級通信の発行時)
- 「ここに成名っ子カード」を学期1回実施し、記録を残し、比較する。学級懇談でも話題にあげる。(6月、11月、2月)
- 「家庭学習カレンダー」を毎日記入させ、家庭学習の習慣づけを図る。
- 学校生活アンケートを実施し、結果を受けて改善を図る。(学期末)

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 4教科の平均正答率で全国・県平均を上回る。
- 現在よりもテレビやゲームの時間を減らし、家庭学習の時間を増やす。(90%)
- 自分の考えを書いたり、伝えたりできるようにする。(80%)
- 「自分にはよいところがある」と回答する児童の割合を100%にする。